



アドビ システムズ 株式会社
141-0032 品川区大崎 1-11-2
ゲートシティ大崎イーストタワー 19F

アドビ、エクスペリエンスデザインの成長を加速する Adobe XD スタータープランを発表

さらに 1,000 万ドルのデザイン投資基金を設立し、デザイナーと開発者向けの
革新的ツールとサービスの開発を支援

※当資料は、2018 年 5 月 15 日に米国本社から発表された [プレスリリース](#) の抄訳です。

【2018 年 5 月 16 日】

米国カリフォルニア州サンノゼ発：Adobe（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は本日、オールインワンの UX/UI デザインプラットフォームである Adobe XD CC を無償で使用できるスタータープランの提供を発表しました。スタータープランには Mac 版および Windows 版の Adobe XD に加え、iOS 版および Android 版のモバイルアプリ、そしてユーザー エクスペリエンスのデザイン、プロトタイプ、共有を共同作業で行うためのサービスが含まれます。無償のスターターキットと、新機能と機能強化が施された最新アップデートリリースによって、Adobe XD はデザインとプロトタイプの両機能をともに業界最高レベルのパフォーマンスで提供する、唯一のクロスプラットフォームのエクスペリエンスデザインプラットフォームとしての地位を確実なものとしました。また、Adobe XD は Adobe Creative Cloud に含まれるツールであるため、デザイナーが慣れ親しんだ既存のワークフローと Photoshop CC や Illustrator CC など広く使われているツールと緊密に連携します。加えてアドビは、急成長するこの領域の重要性を考慮し、エクスペリエンスデザインにおけるイノベーションを促進する目的で、1,000 万米ドル（約 11 億円）のデザイン投資に向けた基金の設立を発表しました。

アドビの Creative Cloud 担当チーフプロダクトオフィサー兼エグゼクティブバイスプレジデントであるスコット ベルスキー（Scott Belsky）は次のように述べています。「UX デザインは、デザイン業界の中でも最も急速に成長している領域です。本日発表の Adobe XD スタータープランは、新進のアーティストからブランド企業まで、すべての人々に卓越したデジタルエクスペリエンスをデザインし、提供するために必要なすべてを届けるというアドビのビジョンの一環です。追加の投資を行うことなく、誰もがこの急速に拡大している UX デザイン領域に踏み込んでいくことができるようになるのです。」

Adobe XD スタータープランについて

アドビの調査（英文）によれば、経営層の87%が、トップレベルの顧客体験の創出に不可欠なユーザーエクスペリエンス（UX）デザイナーの採用が自社にとっての最優先事項であると考えています。世界のデザインコミュニティにとって重要な前進となる今回の無償スタータープランの提供により、デザイナー、デザインチーム、学生は、すでに業務として取り組んでいるか今後の参入を目指しているかに関わらず、Adobe XD を使ってデザインスキルを獲得、増強、適用できます。XD スタータープランには Typekit と Creative Cloud ライブラリが含まれるため、プロジェクトに必要なアセットを、さまざまなデバイスにわたって簡単に共有、管理することができます。

クリエイティブイノベーションを促進する1,000万ドルの基金

パートナー、開発者、スタートアップ企業などが活発に活動するエコシステムを形成するため、アドビは本日、Adobe Fund for Design という1,000万ドルの基金を設立しました。基金は助成金あるいは株式投資というかたちで分配されます。この基金はデザイナーと開発者が、エクスペリエンスデザインの領域でイノベーションを起こし、Adobe XD をプラグインによる機能追加とサードパーティ製ツールやサービスとの連携が可能なプラットフォームとして活用していくことを支援するものです。この基金は、デザインコミュニティに対するアドビの継続的な投資とコラボレーションの延長線上にあるもので、デザイナーと開発者が、数百万人のクリエイティブプロフェッショナルと世界のトップブランドが使用する Creative Cloud のワークフローに密接に連携する Adobe XD を最大限活用することを可能にします。

Adobe XD のワークフロー機能強化

アドビは本日、無償スタータープランと基金設立の発表に加え、コンセプトからプロトタイプ作成へのワークフローを省時間化するアップデートをはじめとする、数々の新機能と機能強化を施した Adobe XD の新バージョンをリリースしました。Adobe XD の新機能は、デザインコミュニティからのフィードバックとユーザーの要望をもとに優先順位がつけられ実装されています。最近の主な新機能には、Sketch ファイルおよび Photoshop CC ドキュメントを Adobe XD で直接開く機能、デザインスペック（ベータ）の公開、共有機能、Dropbox、Zeplin、Avocode、Sympli といったサードパーティ製ツールとの連携機能があります。

今月のアップデートリリースの新機能と機能強化

- Sketch および Photoshop CC との連携強化：先ごろ追加した Sketch および Adobe Photoshop CC ファイルを Adobe XD で直接開く機能を強化しました。今回のリリースでは、線ならびに画像の効果の読み込みをサポートし、Photoshop ファイルの読み込みにかかる時間を短縮しました。Sketch ファイルに関する限りよりオリジナルに忠実な読み込みが可能になりました。
- デザインスペック（ベータ）のパスワード保護：デザインスペックをパスワード保護し、ア

クセスを制限することができます。[共有] ポップアップウィンドウでパスワードを設定してからリンクを共有することで、外部に公開したくないデザインを保護できます。

- **ドラッグ&ドロップでシンボルを置換**：アセットパネルからシンボルをドラッグし、アートボードに配置済みのシンボル上にドロップすることで、そのシンボルのインスタンスすべてを置換できます。
- **複数アートボードへのペースト**：エレメントをコピーしたのち、複数のアートボードを選択すれば、それらすべてにエレメントがペーストされます。

アドビは新進デザイナーと熟達したデザイナーがそれぞれのユニークなデザインプロセスを共有できる [Creative Jam](#) というイベントシリーズの開催を通じ、学びと成長の機会を提供しています。また、今月のアップデートと同時に、デザインコミュニティ向けの無償の UI キットとリソースを提供開始しました。これらは [ダニエル ホワイト](#) (Daniel White)、[アナ ミミノシビリ](#) (Ana Miminoshvili)、[ゼニア リンチュク](#) (Zhenya Rynzhuk)、[スティーブ ウォルフ](#) (Steve Wolf)、[Creative Mints](#) に所属する [マイク](#) (Mike) の諸氏をはじめとする世界各地の著名なデザイナーによって作成されました。

価格と提供開始時期

Adobe XD スタータープランは本日より無償で提供されます。現在 Adobe XD 無償体験版をご利用のユーザーは Creative Cloud デスクトップアプリまたは xd.adobe.com からアクティベーションして、ご利用中のバージョンをアップデートする必要があります。この無償プランは既存の Adobe XD プラン（個人版、グループ版、エンタープライズ版）を補完するものです。

Adobe XD CC 単体プラン（1,180 円/月、税別）や Creative Cloud のコンプリートプランを購入すれば、プロトタイプおよびデザインスペック共有の制限がなくなります。各プランの詳細および価格については [アドビのウェブサイト](#) をご覧ください。

参考情報

- Adobe XD 無償スターターキットの[ダウンロード](#)
- 日本時間 5 月 16 日 午前1時（太平洋標準時 5 月 15 日 午前9時）から Adobe XD 開発チームが [Behance](#) でライブストリーミングを配信します
- Creative Station ブログの関連記事：[最新の XD アップデートについて](#)（その他のブログも順次公開予定です）
- 無償 UI キットと担当デザイナーの情報は[こちらから](#)
- [Adobe XD ラーニングとサポート](#)

アドビについて

アドビは、世界を動かすデジタル体験を提供します。

アドビ システムズ 株式会社はその日本法人です。同社に関する詳細な情報は、[Web サイト](#)に掲載されています。

© 2018 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe Systems Incorporated in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.